



あたたかさ溢れる山口市～後編～

- 1. ええやんビーブル
- 2-3. ねえねえ知っちゃう? 山口の支え人 地域おこし協力隊編
- 4. 市民活動×ローカルビジネス

みんなが主役! 誰もが心豊かに暮らせるまち山口を目指して、はじめの一步を応援する市民活動情報紙



誰かのために 何かのために 活動している人をご紹介します

Vol.31

山口市地域おこし協力隊

まつど きおみ 松戸 基緒美さん

1989年生まれ、東京都出身、山口市在住。大学卒業後、歯科医院で医療事務に従事し、30歳になって移住を決定。退職後2022年6月より山口市阿東に地域おこし協力隊として着任し「NPO法人ほほえみの郷トイトイ」に勤務している。



- 1. 健康づくりや交流を目的としたイベントなどを開催
- 2. 食品や日用品を届けながら住民の見守り役も果たすトイトイ号
- 3. 地域のひととの談笑の時間を大切にしている松戸さん

地域おこし協力隊制度

都市地域から人口減少や高齢化等の進行が著しい地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着、そして地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした総務省の制度。山口市では2013年度から地域おこし協力隊を採用し、2024年度までに48名の隊員が着任しました。



移住して気づいた 新たな幸せ

Photo/ito satomi

「トイトイのまつきおちゃん」として、地域のひとに親しまれている松戸基緒美さん。松戸さんが地域おこし協力隊に応募したきっかけや、阿東での暮らしの様子、これからの思いなどをお聞きしました。

1冊の本との出会い

東京暮らしに不満はなく、仕事も順調でしたが、このままいいのかと漠然とした不安が芽生えた時期に『きぼうしゅうらく』という本を読み、ハツとなったんです。同年代の女性が、知り合いのいない場所で覚悟を持ち新しいことをする姿に、私も誰かの「ありがとう」につながる何かをしてみたいと感じ、移住先を探し始めました。コロナで現地へ行くことができない中、オンライン相談で現在お世話になっている「NPO法人ほほえみの郷トイトイ」の高田さんと出会い、試しに阿東に滞在することに。そこで目にしたのは、70代から80代のお母さんたちが、トイトイの工房でいきいきと働く姿でした。何歳になっても、元気なうちには地域のために頑張る様子がキラキラしていて、「私も同じように歳を重ねたい。ここだ!」と思ったんです。

「トイトイの人」になるまで

トイトイは地元のスーパード、住民の交流の場にもなっている拠点です。そのトイトイで地域おこし協力隊の募集があり、これは地域のことをいろいろ知るチャンスだと思い応募しました。着任後、私

は移動販売車「トイトイ号」に乗って阿東地帯をまわりながら、住民のみなさんを知ることに全力を注ぎました。今、目の前にいる人が何を思っているのか、困っていることはないかなど、ちょっとした変化にも気づけるよう気を配りながら、いろいろな人とたくさん話を重ねました。その甲斐あって、いつの間にか「トイトイのまつきおちゃん」として認知してもらえるようになった気がしました。

優しさ溢れるこの地域で

2年目からは、お店と移動販売用のお惣菜作りにも挑戦しています。もともと料理は苦手だったんですが、工房で阿東の味を守ってきたお母さんたちが「花嫁修業じゃ!」と、愛のある指導をしてくれて、今ではずいぶん上達しました。トイトイに所属したことで、地域のひとたちと関わるのが本場に多く、他の隊員たちも「人があたたかくて、つながりが濃くて、いつも助けられているよね」と話しています。体調不良になったときには「近所さんがお惣菜などを差し入れてくださり、悩みがあった時でもたくさん励ましてもらいました。何か困ったことがあっても、今までは自分で解決するようにはしていましたが、阿東に来てからはまわりに助けを求め、自分を休めることも必要だと思えるようになりました。

阿東で見つけた幸せのかたち

東京では週末に仕事の疲れを癒すため、都市部に出かけては買い物をしていましたが、こっちはご近所さん家にお邪魔させてもらい、お手製の辛し和えなどを食べながらおしゃべりして過ごしています。自分は今までは、近くに何でもあって、恵まれた環境で育ってきたんだと改めて感じる反面、人それぞれに違う幸せのかたちがある中で、本当の豊かさは身近にあるんだとも思えるようになりました。私を支え、成長させてくれたたくさんの人たち、このあたたかい地域に、任期終了後も恩返しをしていきたいと思っています。

基礎から手づくりしたアースオープン



アースオープンとは 粘土質となる土や砂、藁など身近な天然素材でつくられた環境に優しい石窯のことだよ!

不登校児を支援している団体「トイキョーコーヒー山口」と、会員制シェア農園「イタヤマノウエン」の、両者の思いが重なって実現した「アースオープンづくり」を取りました。

米屋 私たちトイキョーコーヒー山口は、地域の赤ちゃんから大人まで年齢は関係なく、自由に過ごせる居場所として集まっています。みんなで、何か楽しいことができたらな、って考えていたところ、たまたま環境建築家の友人からアースオープンの制作を提案されて板さんに相談したんです。板山 米屋さんから、うちがピッタリだからやらせて!って言われて(笑)。イタヤマノウエンは、会員のみなさんで畑を共有して一緒に野菜を育てていくスタイルなんです。ここでの過ごし方はさまざまで、農

市民活動×ローカルビジネス アースオープンづくりで生まれた居場所



イタヤマノウエン
代表 板山 弘平さん

山口市仁保で、畑と新鮮野菜をみんなでシェアする会員制ノウエン。食や暮らしに関わることや、自給することをみんなで楽しく実践しています。

URL
https://www.instagram.com/itayamanouen/

トイキョーコーヒー山口
代表 米屋 佐和子さん

全国に386の拠点を持つトイキョーコーヒーは「登校拒否」のアナグラム。トイキョーコーヒー山口は、大人も子どもも安心して全力で楽しめる居場所を目指しています。

URL
https://www.instagram.com/tkcf_yamaguchi/

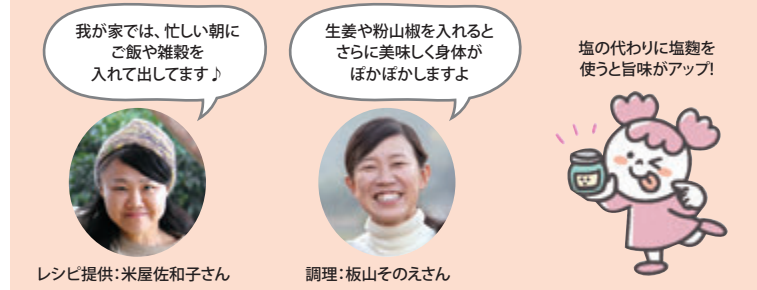


塩麹スープ

材料 3~4人分

作り方

1. 鍋に水を入れ、お好みのサイズにカットした野菜やキノコを入れて火にかける
2. 沸騰したら火を弱め、すりおろしたんにんにくを入れ、野菜に火が通るまで煮込む
3. 火を止めて塩麹、味噌を溶かしてできあがり



作業で身体を動かしたり、子どもと一緒に遊んだり、のんびり過ごして癒された。会員さん同士の良い関係も築けているんですよ。

米屋 私自身がイタヤマノウエンの会員で、農園を通じて新たな人と人の繋がりが生まれることに惚れ込んで(笑)。東京育ちの私が思う山口の良さは、やっぱり自然を身近に感じられるところですね。つくるを通して生きるを学ぶ、ことをしたい私には、最適な場所なんです。

板山 福岡出身の私も、同じ価値観の人間が無理なく繋がる山口の規模感が心地いいなと思って。私は、大人も子どもも関係なく、なるべくお金を頼らずに暮らしに困るいろいろなものを自給自足したり、つくるを通して生きていくのが学べていけたらいいと考えているので、トイキョーコーヒー山口の思いに共感でき、企画に賛同したんです。

米屋 というわけで、アースオープンづくりが始まりました。土台を作るためにDIYをしました。オープンの本体は、漆喰を施したりと、普段体験できないからこそも作業ができました。子どもたちは、畑で鶏やギと戯れたり、気の向くまま過ごしていたけど、トイキョーコーヒー山口は自由

に過ごせる居場所でありたいので、それでオツケいなんです。

板山 私たちも、ここでの過ごし方や遊び方を制限しないようにしているんですけど、みなさんの赴くまま自分らしく過ごされていけば、私たちが嬉しいです。

米屋 子どももだけど、大人たちも作業を全力で楽しんでいてキラキラしていたよね!そんな大人の姿を見ていたら、水遊びしていた子どもが手伝い始めた。子どもたちって、自分の周りの大人たちをよく見てるんですよ。

板山 アースオープンづくりにはノウエンの非会員さんも来られましたが、程よい距離感が繋がりを持たせようとした。

米屋 板さんたちのおかげです!アースオープンが完成してからも、みんなでピザやパンづくりをしました。食やつくるを通して、豊かなヒトトキを過ごせました。これからも楽しく活動していきたいと思っっていますので、引き続きお願いします。

板山 これまで携わってきた農と食を起点に、さらにご縁を大切にしていきたいと思っっていますので、こちらこそよろしくお願ひします。

クイズに答えて 阿東のお米 をもらおう

ハガキまたはメール、もしくは右のQRコードより以下を明記のうえ、さぼらんてまでご応募ください。

1. お名前・郵便番号・ご住所・年齢・職業・電話番号
2. クイズの答え
3. ええやん新聞を手に入れた場所
4. ええやん新聞31号へのご意見、ご感想
5. 取り上げてほしいテーマ、市民活動団体

※ご記入いただいた個人情報は、その目的以外での利用いたしません。

「地域の絆でつくる笑顔あふれるお米の故郷づくり」を目指すNPO法人ほほえみの郷トイトイ様よりご提供いただきました。

3kg **5**名様

締切 2025年 5月30日

当日領印有効。当選者には引換券を郵送いたします。賞品はトイトイ店舗(山口市阿東地帯 1886-1)での受け取りとなります。

2024年度までに採用された山口市地域おこし協力隊は

〇名

市民広報記者編集後記

週に一度「市民広報記者」としてええやん新聞の制作に携わるのは、子育て中のママたち。誰かのために頑張っている人々や団体を取材し、その感動を市民に届けています。

関光 横濱生まれながらたくさんのことを経験され、シドニーとの出会いや移住したことを実現させた原田さん。続ける姿は本当に素敵です。私も頑張りたいと思えるパワーをいただきました。

吉田 アースオープンの制作と、パンづくりのイベントに参加。改めてつくづくを通して学ぶ力が育まれた。原田さんと一緒に、自分らしく過ごす心地よい居場所でした。

桑重 今回1冊を担当させてもらい、新しいことをやるには年齢は関係ない、力強い取材が、協力隊を支えている団体の話、これからの私の人生の糧になることになりました。

さぼらんて編集 今年も阿東市「カライ」になりました。今年も阿東の巨大クリスマスツリーを見に行かなくては!

地域おこし協力隊を支える団体

地域唯一のスーパーの撤退により不安が広がったことから、地域に必要なものは何かを考え、不安を安心に変えようという立ち上げたのが、「ほほえみの郷トイトイ」です。スーパーとしての役割はもちろんだが、地域の人の交流の場にもなっていて、ここに来たくても来られない人には移動販売車を使って商品と安心をお届けしています。

トイトイでは、阿東で生活を希望する方が収入を得ながら活躍できるように、仕



NPO法人ほほえみの郷トイトイ
たかだしんいろう
事務局長 高田新一郎

事や関係人口を生み出し、地域が応援していく体制の構築を進めてきました。2022年からは、市からの要請もあり、阿東に着任する地域おこし協力隊の受け入れやサポートを開始。見ず知らずの地へ都会からやつてくる若者たちを支えていけるのか、当初は正直不安もありましたが、ともに日々を過ごす中で、地域の人たちの優しさや感謝の言葉に触れ、いきいきと輝いていく隊員たちの姿を見てきました。彼らが自分の個性や得意なことを活かせるように、なるべく口出しはせず、主体性に任せようようにしています。人生をかけて地域おこし協力隊になり阿東に来てくれた人材を、大切に育てていきたいと考えています。

こうして阿東に移住してくれる若者がいる一方で気になっているのは、地域で育つ子どもたちです。阿東に残り出られるのはもちろん嬉しいですが、外に出てしっかりと学んだりいろいろな経験してほしいと



トイトイで活躍している3人の隊員たち

【取材協力】
NPO法人ほほえみの郷トイトイ

理事長 長安正己さん
住所 山口市阿東地福1886-1
TEL 083-952-1800
URL https://jifuku-toitoy.com/

「山口には何も無い」そう思われている人もいるかもしれませんが、でも、私たち市民の「当たり前」の日常が、移住者の方たちから見たら特別なものだったりするんです。景色が美しく、人があたたかくて、それは最高で贅沢な日常なのかもしれません。あなたの「当たり前」の中にも、きっと山口の良さがたくさんあります。ぜひ、山口の良さを再発見してみてくださいね。

ぐちえん! まえんありがとう



徳佐りんごを100%使用してりんご本来の風味を活かしたシードル



2024年9月5日開業の山手山上新店舗をオープン

やまぐちシードル

協力隊卒業後、2019年9月にやまぐちシードルを創業し、自社の商品販売を開始。現在、店舗では商品の販売のみですが、今後はカフェスペースやシードルに合う食事とのコラボ企画なども計画。また、地域に隠れているまだ知られていない美味しいものを見つけて紹介し、将来はここを繋がりや交流の場とするべく育てていきたいそう。

阿東とはちょっと離れたこの場所で、これからもやまぐちシードルを通じて、阿東や山口の情報発信や魅力を伝えていきたいなと思います。(蘭光)

[URL] https://www.instagram.com/yamaguchi_cidre/

はらだなおみ 原田尚美さん

出身地 > 山口市小郡
着任地 > 山口市全域
期間 > 2016年6月～2019年5月



シードルを通じて繋がる輪づくり

大学を出てそのまま関西でOLをしていましたが、仕事に対して何か満たされない気持ちを抱えていたんです。自分にしかできない仕事や天職と思える仕事があったら、何度か転職もした。もともとワインが好きなので、休日はぶどう農家の支援ボランティアに参加したり、ワイナリー巡りをしたりして過ごしていました。そんな中、ワインを通じて話が生まれ、人と人が繋がり、ワインはコミュニケーションツールとしても素敵だなと感じるようになったんです。そして、自分もお酒に携わりたい、農と食と人を繋ぐ仕事をしてみたいと思うようになりました。そんな時、地元山口で地域おこし協力隊の募集があることを知ったんです。「地域の特性を踏まえたビジネスモデルの構築」というミッションに、これは私のやりたいことができるかもしれないと思い、32歳の時に山口に帰る決心をしました。

当初私は、山口市内にワイナリーをつくりたいと考えていて、ぶどうを植える場所を探して市内を視察している時に、阿東のりんご農家さんと出会いました。そのご縁から、徳佐りんごを使ったスパークリングワイン=シードルにたどり着き、山口らしさを大切にしてお酒づくりに挑戦することにしたんです。

地域おこし協力隊では、事務仕事からイベント企画、シードルの啓蒙活動などさまざまなことに取り組み、たくさんの方にお世話になりました。大変なことも多かったですが、阿東を訪れるとみなさんが快く迎え入れてくれて、話を聞いてくれる。そういうあたたかさで助けられてきたと思います。

そして私は、シードルの製造販売を通して、人と人が繋がる輪づくりがしたいんだと気づきました。美味しいりんごを作ってくれる農家さんがいて、美味しいワインを作ってくれる醸造家さんがいて、美味しいものを求める人がいる。それを繋ぐのが自分の役割なんだと思っています。これまでいろいろな経験をしたらこそ、今やりがいいを持って、自分の本当にしたい仕事ができていると思います。

山口の支え人 地域おこし協力隊編

このたびは山口市に地域おこし協力隊としてやって来ましたよ。よろしくお願ひします。

頑張ります

地域おこし協力隊として頑張ります

地域おこし協力隊って何だろう?

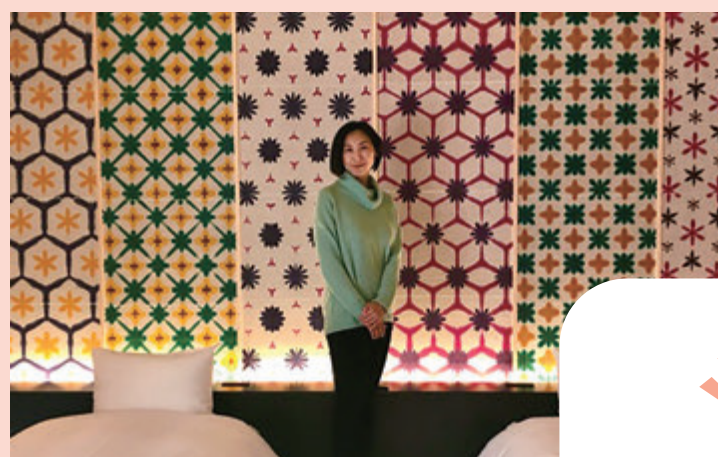
地域おこし協力隊とは、その地域を盛り上げようとして、その地域からやってきた人たちのことだよ!

なるほど...

どんなことをしているんだろう?

地域おこし協力隊として頑張ってきた人たちが、山口でどんなことをしているんだろう?

聞いってみよう



徳地和紙の折染めを使用した星野リゾート「界・長門」の特大ベッドボード



徳地中学校の生徒と制作した和紙灯り

ふなせはるか 船瀬春香さん

出身地 > 東京都
着任地 > 山口市徳地
期間 > 2015年6月～2018年5月



自分らしい生き方を教えてくれた徳地和紙

東京で20年間事務職をしていましたが、どこか達成感が得られずに過ごしていました。以前からデザインやものづくりに興味があり、友人から地域おこし協力隊制度を教わり「山口市徳地手書き和紙の技術継承」というミッションに惹かれて応募。40歳で初めて、ものづくりと移住に挑戦することになったんです。

お師匠さんである「千々松和紙工房」の方から、技術を教わる日々。材料となる原木栽培に始まり、いくつもの工程を手作業で丁寧に行うなど、骨が折れる仕事に驚きと失敗の連続でした。でもそのおかげで、多くを学ぶことができ、ものづくりの苦労を知ったことで、日常の一つひとつが大事に思えるようになりました。イベントやワークショップでは、材料を最後まで使い切るという日本人の知恵、徳地和紙の魅力、800年以上守られてきた伝統についてPRさせてもらっています。

自分の好きなことを仕事にできるのが、いかに贅沢で幸せなことかをこちらに移住して気づきました。また、東京では隣人が誰かさえ分らないくらいでしたが、山口では知り合いがどんどん繋がっている。都会にはない、山口ならではの魅力だと感じます。徳地の冬は都会や山口市中心部とは比べものにならないくらい極寒で、気が滅入ることもありました。だからこそ、春を迎えると山の命が芽吹いてくる力強さや美しさを体感できるんです。「山が笑う」を全身で感じる事ができ、自身の気力も支えられ、春の訪れと共に前に動き出しています。こんな自然豊かな徳地だからこそ、世界に誇れる和紙が生み出される。その魅力を、次世代や世界に伝えていきたいです。

辛いことより楽しい時間が多いと感じられ、身体も心も元気にしてくれた山口市徳地、憧れをカタチに変えてくれた地域おこし協力隊制度、サポートしてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

[URL] https://www.instagram.com/tokuji_washi/



ジビエカレーを通じて野生動物との共存を考える機会を提供



野生ならではの傷をデザインとして活かしたシカ革ポーチとコインケース

なかおかゆうすけ 中岡佑輔さん

出身地 > 兵庫県
着任地 > 山口市南部地域
期間 > 2019年3月～2022年2月



レザーを介して気づいた野生動物との共存

神戸にいたときに大病を患い、闘病生活をした経験から、自分の生き方を深く考えるようになりました。レザー製品の製造販売に携わっていたので、レザーの仕事で独立しようと思い移住先を探していたときに、昔住んだことがある山口で地域おこし協力隊の募集を見つけたんです。課された任務は「南部地域ニューツーリズム形成業務」で、僕の武器であるレザーを使って、地域の方とコミュニケーションを取りながら、交流人口の拡大を目指せなかと考えました。また、レザーを扱う中で、農作物を荒らし「害獣」と呼ばれるシカやイノシシの革にも興味を持つようになり、農家の害獣被害の現実と、捕獲後の動物のほとんどが廃棄されていることに気づかされました。そこで、山口で捕獲されたシカの皮を革製品として生まれ変わらせ、それを地域の魅力の一つとしてPRしようと考えたんです。

レザーを使ったワークショップを始める前には、参加者のみなさんに必ず害獣対策の資料を見てもらい、野生動物との共存について考えてもらってきつくりを行って来ました。そして、人を集めることが難しくなったコロナ発生以降は、キッチンカーを準備して、山口県産のシカ肉を使った「ジビエカレー」を地域の人たちに食べてもらいイベントを開催。ジビエの美味しさや栄養価の高さ、そして野生動物の大切な命を食べることも共存の一つだと気づいてもらい、地域活性に繋がればという思いで活動しました。

環境を変えることはすごく勇気がいることですが、自分自身の行動こそが「気づきを生む」という気持ちで過ごしています。現在は秋穂二島に住んでいますが、自然豊かで子どもたちがとつものびのびできる環境で、僕もすごく癒されています。ここでも地域との繋がりを守りながら、いろんな人たちの出会いの場所にもなる活動拠点をつくりたいと思っています。

キツク プロジェクト Kizuku Project

自分の気づきから何かを生み出し、それが誰かのためになれば自身の幸せにも繋がる。そんな素敵な思いで現在も活動中。レザー製品やジビエの取り組みの他にも、イベントの企画運営(パンと珈琲のフェスティバル「山口市移住者交流会」など多数)、移住相談など、地域と外部人材を結ぶ活動をされています。気づきから生み出されるアイデアで、これからはますます地域が発展し、活気づいていくことが楽しみです。(泉重)

[URL] https://www.instagram.com/kizuku_project/